

お願いとご注意

—重要なお知らせ—

androidone

X2

目次

お買い上げ品の確認.....	2
マナーとルールを守り安全に使用しましょう	3
安全上のご注意	5
使用材料.....	21
お願いとご注意	23
輸出管理規制	46
知的財産権について.....	46
本機の比吸収率 (SAR) について	53
Specific Absorption Rate (SAR) for This Product (for Japan).....	57
FCC Notice	62
DECLARATION OF CONFORMITY	64
暗証番号について	67
PINコード設定.....	67
ソフトウェア更新	69
保証とアフターサービス.....	71
お問い合わせ先一覧.....	72

お買い上げ品の確認

このたびは「Android One X2」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

■ Android One X2本体



■ USB-Cハイレゾイヤホン (試供品)

■ SIM取り出しピン(試供品)



■ クイックスタート

■ お願いとご注意(本書)

■ 保証書

- 本書ではmicroSDHCカードおよびmicroSDXCカード (microSDカードを含む)を、以降「SDカード」と記載いたします。
- 本書の内容はAndroid 8.0 Oreoで記載しています。
- その他のオプション品につきましては、お問い合わせ先 (▶P.72)までご連絡ください。

マナーとルールを守り安全に使用しましょう

本機を使用する場合は、周囲の方の迷惑にならないように注意しましょう。

また、お読みになった後は本書を大切に保管してください。

こんな場所では、使用禁止！

本機をご利用になるときに、誤った使いかたをすると、けがや故障の原因となります。

- 自動車や原動機付自転車、自転車などの運転中は、音楽や動画を視聴しないでください。自動車・原動機付自転車運転中の携帯電話の使用は法律で禁止されています（自転車運転中の使用も法律などで罰せられる場合があります）。また、歩行中でも周囲の交通に十分ご注意ください。周囲の音が聞こえにくく、表示に気を取られ交通事故の原因となります。特に踏切、駅のホームや横断歩道ではご注意ください。
- 航空機内での使用については制限があるため、各航空会社の指示に従ってください。

周りの人への配慮も大切！

- 映画館や劇場、美術館、図書館などでは、発信を控えるのはもちろん、着信音で周囲の迷惑にならないように電源を切るか、マナーモードを利用しましょう。
- 街中では、通行の邪魔にならない場所で使いましょう。
- 携帯電話の画面を見ながらの歩行は大変危険です。歩行中または急に立ち止まっての通話や操作は控えましょう。
- 新幹線の車中やホテルのロビーなどでは、迷惑のかからない場所へ移動しましょう。
- 通話中の声は大きすぎないようにしましょう。
- 電車の中など周囲に人がいる場合には、イヤホンなどからの音漏れに注意しましょう。
- 携帯電話のカメラを使って撮影などする際は、相手の方の許可を得てからにしましょう。本機の側面には写真を撮影できるセンサーが搭載されています。意図せぬ撮影に注意してください。
- カメラ機能をご使用の際は、一般的なモラルを守りましょう。
- 満員電車の中など混雑した場所では、付近に心臓ペースメーカーを装着している方がいる可能性があります。事前に本機を「機内モード」に切り替える、または本機の電源を切っておきましょう。
- 病院などの医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止と定めている場所では、その指示に従いましょう。

マナーを守るための便利な機能

マナーモード／サイレントモード

電話がかかってきたときなど、着信音が鳴らないようにします。

留守番電話サービス

圏外時や電話を受けられないとき、留守番電話センターで伝言をお預かりします。

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。

表示の説明

次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

 危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷 ^{※1} を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
 警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷 ^{※1} を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷 ^{※2} を負う可能性が想定される場合および物的損害 ^{※3} の発生が想定される」内容です。

※1 重傷: 失明・けが・やけど(高温・低温)・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものを指します。

※2 軽傷: 治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど(高温・低温)・感電などを指します。

※3 物的損害: 家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害を指します。

禁止・強制の絵表示の説明

 禁止	禁止(してはいけないこと)を示す記号です。
 分解禁止	分解してはいけないことを示す記号です。
 水滴れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
 濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
 指示	指示に基づく行為の強制(必ず実行していただくこと)を示す記号です。
 電源プラグを抜く	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

本機、充電用機器、SIMカード、周辺機器の取り扱いについて(共通)

⚠危険



禁止

高温になる場所や熱のこもりやすい場所(火のそば、暖房器具のそば、こたつや布団の中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など)で使用、保管、放置しないでください。火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

電子レンジ、IH調理器などの加熱調理器、圧力釜などの高压容器に入れたり、近くに置いたりしないでください。火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

砂や土、泥を掛けたり、直に置いたりしないでください。また、砂などが付着した手で触れないでください。
火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
防水・防塵性能については、「防水／防塵性能について」(▶P.40)を参照してください。



禁止

水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)で濡れた状態では、充電しないでください。
火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
防水性能については、「防水／防塵性能について」(▶P.40)を参照してください。



禁止

本機に強い圧力を加えたり、折損させたりしないでください。特に衣類のポケットに入れて持ち運ぶ場合は、ぶつけたり、物に挟んだりしないでください。

内蔵電池の破損により、火災、やけど、けがなどの原因となります。

※ご注意ください例

- スポンやスカートのポケットに入れた状態で座ったり、しゃがんだりする
- 上着のポケットに入れた状態で、扉や自動車のドアに挟む
- ソファやベッド、布団など柔らかい物の上や、床の上で踏みつける



分解禁止

分解、改造をしないでください。
火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



水濡れ禁止

水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)で濡らさないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
防水性能については、「防水／防塵性能について」(▶P.40)を参照してください。



水濡れ禁止

外部接続端子に水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)を入れないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
防水性能については、「防水／防塵性能について」(▶P.40)を参照してください。



指示

オプション品は、ワイモバイルが指定したものを使用してください。

指定以外のものを使用すると、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。

⚠警告



禁止

落下させる、踏みつける、投げつけるなど強い力や衝撃、振動を与えないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

外部接続端子に導電性異物(金属片、鉛筆の芯など)を接触させたり、ほこりが内部に入ったりしないようにしてください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

使用中や充電中に、布団などで覆ったり、包んだりしないでください。

火災、やけどなどの原因となります。



指示

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。

過充電などにより、火災、やけど、けがなどの原因となります。



指示

ガソリンスタンドなど引火性ガスが発生する可能性のある場所や粉塵が発生する場所に立ち入る場合は必ず事前に本機の電源を切り、充電をしている場合は中止してください。

引火性ガスなどが発生する場所で使用すると、爆発や火災などの原因となります。

ガソリンスタンド構内などでおサイフケータイをご使用になる際は必ず事前に電源を切った状態で使用してください。(NFC/おサイフケータイロックを設定されている場合にはロックを解除した上で電源をお切りください。)



指示

使用中、充電中、保管中に、異臭、異音、発煙、発熱、変色、変形などの異常がみられた場合は次の作業を行ってください。

- ・電源プラグをコンセントから抜く。
- ・本機の電源を切る。

上記の作業を行わないと、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。

⚠注意



禁止

破損したまま使用しないでください。
火災、やけど、けがなどの原因となります。



禁止

ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所には置かないでください。バイブレータ設定中は特にご注意ください。

落下して、けがなどの原因となります。



禁止

湿気やほこりの多い場所や高温になる場所での使用、保管はしないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。
防水・防塵性能については、「防水/防塵性能について」(▶P.40)を参照してください。



禁止

子供が使用する場合は、保護者が取り扱いの方法を教え、誤った使いかたをさせないでください。
けがなどの原因となります。



禁止

乳幼児の手の届く場所に置かないでください。
誤飲、けが、感電などの原因となります。



指示

本機を長時間連続使用される場合や充電中は温度が高くなる場合がありますのでご注意ください。また、眠ってしまうなどして、意図せず長時間触れることがないようにご注意ください。

アプリ、通話、データ通信、動画視聴など、長時間の使用や充電中は、本機やACアダプタ(別売)の温度が高くなる場合があります。温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌の赤みやかゆみ、かぶれ、低温やけどなどの原因となります。

本機の手取りについて

⚠危険



禁止

火の中に投入したり、熱を加えたりしないでください。
火災、やけど、けがなどの原因となります。



禁止

釘(鋭利なもの)を刺したり、ハンマー(硬いもの)で叩いたり、踏みつけたりするなど過度な力を加えないでください。
火災、やけど、けがなどの原因となります。



指示

本機内部の物質などが目や口の中に入った場合は、すぐにきれいな水で洗った後、ただちに医師の診療を受けてください。

本機内部の物質などの影響により、失明や体調不良などの原因となります。

⚠警告



禁止

ライトの発光部を人の目に近づけて点灯、発光させないでください。特に、乳幼児に対しては十分に距離を離してください。

視力障害などの原因となります。また、目がくらんだり驚いたりしてけがなどの事故の原因となります。



禁止

自動車などの運転者に向けてライトを点灯、発光しないでください。

運転の妨げとなり、事故などの原因となります。



禁止

点滅を繰り返す画面を長時間見ないでください。

けいれんや意識喪失などの原因となります。



禁止

本機内のSIMカード／SDカードのトレイの挿入口に水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)や金属片、燃えやすいものなどの異物を入れないでください。

また、SIMカード／SDカードのトレイの挿入場所や向きを間違えないでください。

火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



禁止

カメラのレンズに直射日光などを長時間あてないでください。

レンズの集光作用により、火災、やけど、けがなどの原因となります。



指示

航空機へのご搭乗にあたり、本機の電源を切るか、機内モードに設定してください。

航空機内での使用については制限があるため、各航空会社の指示に従ってください。

電波により航空機の電子機器に悪影響を及ぼす原因となります。

なお、航空機内での使用において禁止行為をした場合、法令により罰せられることがあります。



指示

病院での使用については、各医療機関の指示に従ってください。

使用を禁止されている場所では、本機の電源を切ってください。

電波により電子機器や医用電気機器に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

ハンズフリーに設定して通話するときや、大きな音で着信音が鳴っているとき、待ち受け中などは、必ず本機を耳から離してください。また、イヤホンマイクなどを本機に装着し、ゲームや動画・音楽再生などをする場合は、適度なボリュームに調節してください。

ハンズフリーに設定して通話すると、本機から大きな音が出ます。

待ち受け中であっても、突然の着信音やアラーム音が鳴動する場合があります。

大きな音を長時間連続して聞くと、難聴など耳への障害の原因となります。

また、音量が大きすぎると周囲の音が聞こえにくく、事故の原因となります。



指示

心臓の弱い方は、着信バイブレータ(振動)や着信音量の設定に注意してください。

突然の着信バイブレータ(振動)や着信音の鳴動に驚き、心臓に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

医用電気機器などを装着している場合は、医用電気機器メーカーもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。

電波により医用電気機器などに悪影響を及ぼす原因となります。



指示

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、本機の電源を切ってください。

電波により電子機器が誤動作するなどの悪影響を及ぼす原因となります。

※ご注意ください。電子機器の例

補聴器、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器、その他の自動制御機器など。植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器をご使用される方は、各医用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。



指示

ディスプレイ部やカメラのレンズを破損した際には、割れたガラスや露出した本機の内部にご注意ください。

破損部や露出部に触れると、やけど、けが、感電などの原因となります。



指示

内蔵電池が漏液したり、異臭がしたりするときは、ただちに使用をやめて火気から遠ざけてください。

漏液した液体に引火し、発火、破裂などの原因となります。



指示

ペットなどが本機に噛みつかないようにご注意ください。

内蔵電池の発火、破裂、発熱、漏液により、火災、やけど、けがなどの原因となります。

⚠️ 注意



禁止

ディスプレイを破損し、内部の物質などが漏れた場合は、顔や手などの皮膚や衣類などにつけないでください。

目や皮膚への傷害などを起こす原因となります。

内部の物質などが目や口に入った場合や、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。また、目や口に入った場合は、洗浄後ただちに医師の診療を受けてください。



禁止

一般のゴミと一緒に捨てないでください。

火災、やけど、けがなどの原因となります。また、環境破壊の原因となります。不要となった本機は、ワイモバイルショップなど窓口にお持ちいただくか、回収を行っている市区町村の指示に従ってください。



禁止

内蔵電池内部の物質などが漏れた場合は、顔や手などの皮膚や衣類などにつけないでください。

目や皮膚への傷害などを起こす原因となります。内部の物質などが目や口に入った場合や、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。また、目や口に入った場合は、洗浄後ただちに医師の診療を受けてください。



禁止

SIMカードの取り外しの際は、指などの体の一部を傷つけないよう、SIM取り出しピンまたはペーパークリップの先端にご注意ください。

SIM取り出しピンまたはペーパークリップの先端に触れると、けがなどの原因となります。



指示

自動車内で使用する場合、自動車メーカーもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上で使用ください。

車種によっては、電波により車載電子機器に悪影響を及ぼす原因となりますので、その場合はただちに使用を中止してください。



指示

本機の使用により、皮膚に異状が生じた場合は、ただちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。

お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。各箇所の材質については、「使用材料」(▶P.21)を参照してください。



指示

本機の受話口、スピーカー、およびメインカメラ部に磁気が発生する部品を使用しているため、金属片(カッターの刃やホチキスの針など)が付着していないことを確認してください。

付着物により、けがなどの原因となります。



指示

ディスプレイを見る際は、十分明るい場所で、ある程度の距離をとってください。

暗い場所や近くで見ると視力低下などの原因となります。

充電用機器の取り扱いについて

⚠警告



禁止

ACアダプタ(別売)が傷んだら使用しないでください。火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

ACアダプタ(別売)は、風呂場などの湿気の多い場所では使用しないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

雷が鳴り出したら、ACアダプタ(別売)には触れないでください。

感電などの原因となります。



禁止

コンセントにつないだ状態で接続端子をショートさせないでください。また、接続端子に手や指など、身体の一部を触れさせないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

ACアダプタ(別売)の上に重いものをのせたり、引っ張るなど無理な力を加えたりしないでください。

火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

コンセントにACアダプタ(別売)を抜き差しするときは、金属類を接触させないでください。火災、やけど、感電などの原因となります。



禁止

ACアダプタ(別売)に海外旅行用の変圧器(トラベルコンバーター)を使用しないでください。発火、発熱、感電などの原因となります。



禁止

本機にACアダプタ(別売)を接続した状態で、接続部に無理な力を加えないでください。火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



濡れ手禁止

濡れた手でACアダプタ(別売)のコードや接続端子、電源プラグに触れないでください。火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

指定の電源、電圧で使用してください。
誤った電源、電圧で使用すると火災、やけど、感電などの原因となります。
ACアダプタ(別売): AC100V~240V(家庭用交流コンセントのみに接続すること)
※海外で使用する場合は、渡航先に適合した変換プラグアダプタを使用してください。



指示

電源プラグについたほこりは、拭き取ってください。ほこりが付着した状態で使用すると、火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

ACアダプタ(別売)の電源プラグをコンセントに差し込むときは、確実に差し込んでください。確実に差し込まないと、火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

ACアダプタ(別売)の電源プラグをコンセントから抜く場合は、コードを引っ張るなど無理な力を加えず、ACアダプタ(別売)本体を持って抜いてください。

ACアダプタ(別売)のコードを引っ張るとコードが傷つき、火災、やけど、感電などの原因となります。



指示

本機に指定のACアダプタ(別売)を抜き差しする場合は、コードを引っ張るなど無理な力を加えず、接続する端子に対してまっすぐ抜き差ししてください。

正しく抜き差ししないと、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



指示

接続端子が曲がるなど変形した場合は、ただちに使用をやめてください。また、変形を元に戻しての使用もやめてください。

接続端子のショートにより、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



電源プラグ
を抜く

使用しない場合は、ACアダプタ(別売)の電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを差したまま放置すると、火災、やけど、感電などの原因となります。



電源プラグ
を抜く

水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)が付着した場合は、ただちにコンセントから電源プラグを抜いてください。

付着物などによるショートにより、火災、やけど、感電などの原因となります。



電源プラグ
を抜く

お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

抜かずに行うと、火災、やけど、感電などの原因となります。

⚠注意



禁止

コンセントにつないだ状態でACアダプタ(別売)に長時間触れないでください。
やけどなどの原因となります。

SIMカードの取り扱いについて

⚠注意



指示

SIMカードを取り扱う際は指などの体の一部を傷つけないよう、切断面にご注意ください。
切断面が鋭利になっている場合があります、けがなどの原因となります。

イヤホンについて

⚠警告



禁止

自転車や自動車などの運転中や歩きながらのゲームや音楽再生に使用しないでください。
安全性を損ない事故の原因となります。

⚠注意



指示

ゲームや音楽再生などをする場合は、適度な音量に調節してください。
音量が大きすぎたり長時間連続して使用したりすると耳に悪い影響を与える恐れがあります。
適度な音量であっても長時間の使用によっては難聴になる恐れがあります。
また、音量を上げすぎると外部の音が聞こえにくくなり、踏切や横断歩道などで交通事故の原因となります。



指示

音量を調節する場合は、少しずつ上げて調節してください。

始めから音量を上げすぎると、突然大きな音が出て耳に悪い影響を与える恐れがあります。



指示

皮膚に異状が生じた場合は、ただちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。

各箇所の材質については、「使用材料」(▶P.21)を参照してください。

SIM取り出しピン(試供品)について

⚠警告



禁止

SIM取り出しピン(試供品)の先端部は、尖っています。本人や他の人に向けて使用しないでください。

本人や他の人に当たり、けがや失明の原因となります。

⚠注意



指示

皮膚に異状が生じた場合は、ただちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。

各箇所の材質については、「使用材料」(▶P.21)を参照してください。



指示

乳幼児の手の届く場所に置かないでください。

誤って飲み込むと、窒息や傷害などの原因となります。

⚠警告



指示

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着されている場合は、装着部から本機を15cm以上離して携行および使用してください。電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

自宅療養などにより医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

身動きが自由に取れないなど、周囲の方と15cm未満に近づく恐れがある場合には、事前に本機を電波の出ない状態に切り替えてください(機内モードまたは電源を切るなど)。付近に植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着している方がいる可能性があります。電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。



指示

医療機関内における本機の使用については、各医療機関の指示に従ってください。電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

使用材料

Android One X2本体

使用箇所	使用材料	表面処理
背面カバー	ポリカーボネート樹脂	OPVD+メッキ
カメラレンズ	ガラス	AFコート処理
カメラレンズ飾り	アルミニウム	アルマイト処理
フラッシュレンズ	光学用ポリカーボネート樹脂	—
ディスプレイ	ガラス/Corning [®] Gorilla [®] Glass 3	AFコート処理
ベセル	ポリカーボネート樹脂	不連続蒸着処理 +UV塗装
SIMカード/SDカードのトレイ	ポリカーボネート樹脂	不連続蒸着処理 +UV塗装
音量キー	ポリカーボネート樹脂	不連続蒸着処理 +UV塗装
電源キー	ポリカーボネート樹脂	不連続蒸着処理 +UV塗装
ホームキー/指紋スキャナー	エポキシ樹脂	UV塗装

USB-Cハイレゾイヤホン(試供品)

使用箇所	使用材料	表面処理
ハウジングカバー	アルミニウム	アルマイト処理
	ABS樹脂	—
ケーブル	熱可塑性エラストマー	—

使用箇所	使用材料	表面処理
イヤープース	シリコンゴム	—
接続プラグ(金属部)	ステンレススチール	—
スイッチ	ABS樹脂	不連続蒸着処理

SIM取り出しピン(試供品)

使用箇所	使用材料	表面処理
SIM取り出しピン本体	ステンレススチール	メッキ処理

お願いとご注意

お取り扱いについて

■ 本機、SIMカード、内蔵電池、充電用機器、周辺機器共通

- 本機に無理な力がかからないように使用してください。多くのものが詰まった荷物の中に入れてたり、中で重いものの下になったりしないよう、ご注意ください。衣類のポケットに入れて座ったりするとディスプレイ、内部基板などの破損、故障の原因となります。また、外部接続機器を外部接続端子やステレオイヤホン端子に差した状態の場合、コネクタ破損、故障の原因となります。外部に損傷がなくても保証の対象外となります。
- 本機の防水性能(IPX7相当)を発揮するために、SIMカード/SDカードのトレイをしっかりと取り付けた状態で、ご使用ください。
ただし、すべてのご使用状況について保証するものではありません。本機内部に水を浸入させたり、充電用機器やオプション品に水をかけたりしないでください。雨の中や水滴がついたままのSIMカード/SDカードのトレイの取り付け/取り外しは行わないでください。水が浸入して内部が腐食する原因となります。調査の結果、これらの水濡れによる故障と判明した場合、保証対象外となります。
- 極端な高温・低温・多湿の場所では使用しないでください。(周囲温度5℃～35℃、湿度35%～85%の範囲内でご使用ください。ただし、本機および本機に取り付けたSIMカードは、周囲温度36℃～40℃であれば一時的な使用は可能です。)
- ほこりや振動の多い場所では使用しないでください。故障の原因となります。
- 外部接続端子をとときどき乾いた綿棒などで掃除してください。汚れていると接触不良の原因となる場合があります。また、このとき強い力を加えて外部接続端子を変形させないでください。

-
- お手入れは乾いた柔らかい布(めがね拭きなど)で拭いてください。
 - － 乾いた布などで強く擦ると、ディスプレイに傷がつく場合があります。
 - － ディスプレイに水滴や汚れなどが付着したまま放置すると、シミになることがあります。
 - － アルコール、シンナー、ベンジン、洗剤、ガラスクリーナーなどで拭くと、外装の印刷が消えたり、故障の原因となります。
-

- 充電中など、ご使用状況によっては本機が温かくなることがありますが異常ではありません。
-

- 屋外で雷鳴が聞こえたときは使用しないでください。落雷・感電の恐れがあります。
-

- カメラのレンズに直射日光などを長時間あてないようにしてください。故障の原因となります。
-

- 極端な高温や低温環境、直射日光の当たる場所でのご使用、保管は避けてください。
-

■ 本機について

- 本機の電池は内蔵されており、お客様自身では交換できません。電池の交換については、「ワイモバイルショップ」などで、本機をお預かりして有料にて承ります。ワイモバイルショップもしくはお問い合わせ先(▶P.72)へご相談ください。
- 強く押す、たたくなど故意に強い衝撃をディスプレイに与えないでください。傷の発生や破損の原因となります。
- キーやディスプレイの表面に爪や鋭利な物、硬い物などを強く押し付けしないでください。傷の発生や破損の原因となります。
- ディスプレイは指で軽く触れるように設計されています。指で強く押ししたり、先のとがったもの(爪/ボールペン/ピンなど)を押し付けたりしないでください。

-
- 改造された本機は絶対に使用しないでください。改造された機器を使用した場合は電波法および電気通信事業法に抵触します。本機は電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明等、および電気通信事業法に基づく端末機器の技術基準適合認定等を受けており、その証として、「技適マーク」が本機で確認できるようになっております。

確認方法

ホーム画面で  (アプリ) → [設定] → [システム] → [端末情報] → [認証情報]

本機を分解して内部の改造を行った場合、技術基準適合証明などが無効となります。技術基準適合証明などが無効となった状態で使用すると、電波法および電気通信事業法に抵触しますので、絶対に使用されないようお願いいたします。

-
- 磁気データや磁気を帯びたものに近づけないでください。キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気データが消えたり、本機の誤動作の原因となります。

-
- 近接光センサーを指でふさいだり、近接光センサーの上にシールなどを貼ると、周囲の明暗にセンサーが反応できずに、正しく動作しない場合がありますのでご注意ください。

-
- 近接光センサーの上にシールなどを貼ると、センサーが誤動作し着信中や通話中にディスプレイの表示が常に消え、操作が行えなくなる場合がありますのでご注意ください。

■ 内蔵電池について

本機の内蔵電池は、リチウムポリマー電池です。フル充電や電池残量が十分でない状態で保管すると内蔵電池の性能低下の原因となります。電池残量が40パーセント程度での保管をおすすめします。



Li-ion 00

-
- 内蔵電池は消耗品です。充電を繰り返すごとに1回で使える時間が、次第に短くなっていきます。十分に充電しても使用できる時間が極端に短くなったら、交換時期です。内蔵電池を交換してく

ださい。なお、内蔵電池は、お客様自身では交換できません。内蔵電池の交換については、「ワイモバイルショップ」などで、本機をお預かりして有料にて承ります。ワイモバイルショップもしくはお問い合わせ先(▶P.72)へご相談ください。

- 内蔵電池は、ご使用条件により寿命が近づくにつれて膨れる場合がありますが、安全上の問題はありません。

■ カメラ機能について

- 大切な撮影などをするときは、事前に試し撮りをし、画像を再生して正しく撮影されていることをご確認ください。
-
- 撮影が禁止されている場所では撮影しないでください。
-
- カメラ機能を利用して撮影した画像は、個人として楽しむ場合などを除き、著作権者(撮影者)などの許可を得ることなく使用したり、転送することはできません。

指紋認証機能について

■ 指紋認証機能利用時のご注意

- 指紋認証は、指紋の特徴情報を利用して認証を行います。指紋の特徴情報が少ないお客様の場合は、指紋認証を利用できないことがあります。
- 認証性能(指紋スキャナー()に正しく指を当てた際に指紋が認証される性能)はお客様の使用状況により異なります。指の状態が次のような場合は、指紋の登録が困難になったり、認証性能が低下したりすることがあります。なお、手を洗う、手を拭く、認証する指を変える、指の登録範囲を広くするなど、お客様の指の状態に合わせて対処することで、認証性能が改善されることがあります。
 - お風呂上りなどで指がふやけている
 - 指が水や汗などで濡れている
 - 指が乾燥している
 - 指に脂(ハンドクリームなど)が付着している
 - 指が泥や油で汚れている
 - 手荒れや、指に損傷(切傷やただれなど)がある
 - 指の表面が磨耗して指紋が薄い
 - 太ったりやせたりして指紋が変化した
 - 登録時に比べ、認証時の指の表面状態が極端に異なる
- 指紋認証技術は、完全な本人認証・照合を保証するものではありません。当社では、本機を第三者に使用されたこと、または使用できなかったことによって生じる損害に関しては、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ 指紋スキャナー()利用時のご注意

- ぶつけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。故障および破損の原因となることがあります。また、指紋スキャナーの表面を引っかいたり、ボールペンやピンなどの先の尖ったものでつついたりしないでください。
- 指紋スキャナーの表面にシールなどを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりしないでください。

- 指紋スキャナーにほこりや皮脂などの汚れなどが付着すると、指紋の読み取りが困難になったり、認証性能が低下したりすることがあります。指紋スキャナーの表面はときどき清掃してください。
- 指を当てる時間が短すぎたり長すぎたりすると、正常に認識できないことがあります。できるだけ指紋の渦の中心が指紋スキャナーの中央に触れるようにまっすぐに当ててください。
- 指紋スキャナーに指を触れたまま指紋の登録や認証を開始すると、起動できない場合があります。指を離し、再度操作してください。

Bluetooth[®] / Wi-Fi(無線LAN)機能について

本機のBluetooth[®]機能およびWi-Fi(無線LAN)機能は、日本国内の無線規格およびFCC規格およびEC指令に準拠し、認定を取得しています。

■ 周波数帯について

本機のBluetooth[®]機能およびWi-Fi(無線LAN)機能は、2.4GHz帯の周波数を使用します。



Bluetooth[®]機能:2.4FH1

本機は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFHSS変調方式を採用し、与干渉距離は約10m以下です。

 全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味します。

2.4DS4/OF4

Wi-Fi(無線LAN)機能:2.4DS4/OF4

本機は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDSSS方式およびOFDM方式を採用しています。与干渉距離は約40m以下です。

■■■■ 全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

利用可能なチャンネルは、国により異なります。
航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

■ Wi-Fi(無線LAN)について

Wi-Fi(無線LAN)は、電波を利用して情報のやりとりを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続できる利点があります。その反面、セキュリティの設定を行っていないときは、悪意ある第三者により不正に侵入されるなどの行為をされてしまう可能性があります。お客様の判断と責任において、セキュリティの設定を行い、使用することを推奨します。

電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。

- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります(特に電子レンジ使用時には影響を受けます)。
- テレビ、ラジオなどの近くで使用すると受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 近くに複数のWi-Fi(無線LAN)アクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。

■ 2.4GHz帯ご使用上の注意

本機のBluetooth[®]機能/Wi-Fi(無線LAN)機能は2.4GHz帯を使用します。この周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、ほかの同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局など(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。
3. ご不明な点やその他お困りのことが起きた場合は、ワイモバイルショップまたはお問い合わせ先(▶P.72)までご連絡ください。

■ 5GHz帯ご使用上の注意

本機のWi-Fi(無線LAN)機能は5GHz帯を使用します。電波法により5.2GHz帯および5.3GHz帯の屋外利用は禁止されております。本機が使用するチャンネルは以下の通りです。

- W52(5.2GHz帯/36, 40, 44, 48ch)
- W53(5.3GHz帯/52, 56, 60, 64ch)
- W56(5.6GHz帯/100, 104, 108, 112, 116, 120, 124, 128, 132, 136, 140ch)

IEEE802.11b/g/n			
IEEE802.11a/n/ac			
J52	W52	W53	W56

■ Bluetooth[®]機器とWi-Fi(無線LAN)対応機器との電波干渉について

- Bluetooth[®]とWi-Fi(無線LAN)は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth[®]、Wi-Fi(無線LAN)のいずれかの使用を中止してください。
- Bluetooth[®]やWi-Fi(無線LAN)が使用する2.4GHz帯は、さまざまな機器が運用されています。場合によっては他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断することがあります。

■ 使用上の注意事項

- 本機はすべてのBluetooth[®]・Wi-Fi(無線LAN)対応機器との接続動作を確認したものではありません。したがって、すべてのBluetooth[®]・Wi-Fi(無線LAN)対応機器との動作を保証するものではありません。
- 無線通信時のセキュリティとして、Bluetooth[®]・Wi-Fi(無線LAN)の標準仕様に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、使用環境および設定内容によってはセキュリティが十分でない場合が考えられます。Bluetooth[®]・Wi-Fi(無線LAN)によるデータ通信を行う際はご注意ください。
- Bluetooth[®]・Wi-Fi(無線LAN)通信時に発生したデータおよび情報の漏えいにつきましては、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 通信機器間の距離や障害物、接続する機器により、通信速度や通信できる距離は異なります。

SIMカードについて

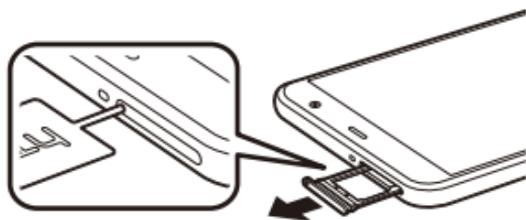
SIMカードは、お客様の電話番号や情報などが記憶されたICカードです。

- SDカードを取り付けている場合は、必ずSDカードのマウントを解除してから、SIMカードの取り付け／取り外しを行ってください。

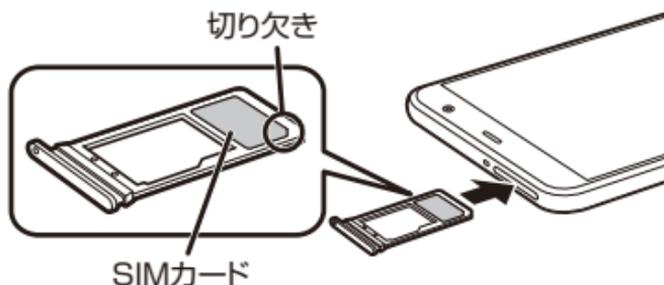
■ SIMカードを取り付ける

SIMカードの取り付けは、本機の電源を切ってから行います。

- 1** SIMカード／SDカードのトレイの穴に、SIM取り出しピン(試供品)を差し込み、トレイを矢印の方向にまっすぐ引き出す



- 2** SIMカードのIC(金属)部分を下に向けてトレイに置き、トレイを矢印の方向にまっすぐ差し込む
切り欠きの位置にご注意ください。



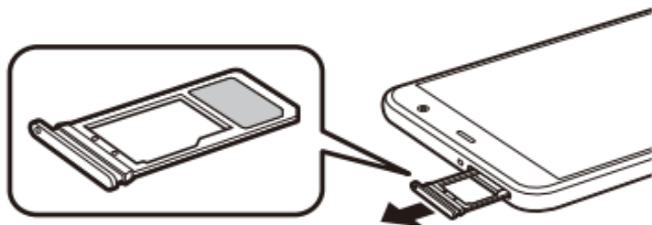
- 3** 矢印の方向になぞり、トレイが浮いていることのないように確実に押し込む



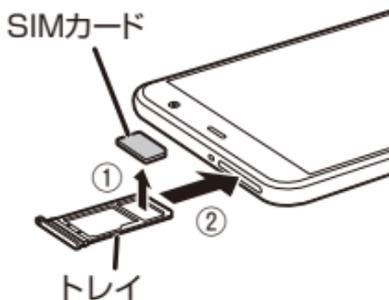
■ SIMカードを取り外す

SIMカードの取り外しは、本機の電源を切ってから行います。

- 1** SIMカード／SDカードのトレイの穴に、SIM取り出しピン(試供品)を差し込み、トレイを矢印の方向にまっすぐ引き出す



- 2** トレイからSIMカードを取り出し(①)、トレイを矢印の方向にまっすぐ差し込む(②)



3 矢印の方向になぞり、トレイが浮いていることのないように確実に押し込む



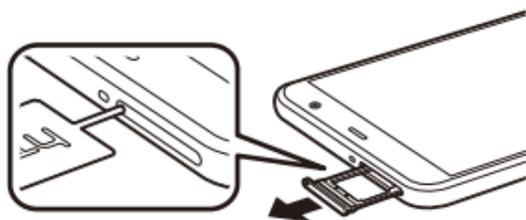
SDカードについて

データをSDカードに保存したり、SDカード内のデータを本機に取り込んだりできます。SDカードは互換性のある他の機器でも使用できます。

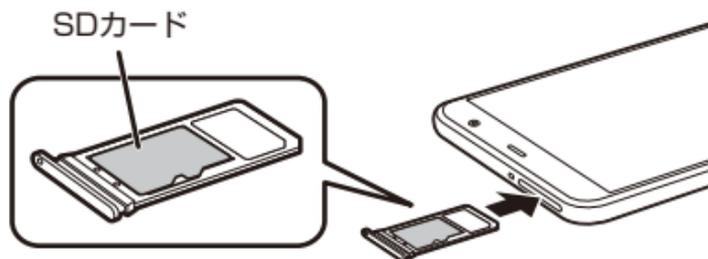
- SDカードは同梱されていません。必要に応じて別途ご購入ください。
- 対応のSDカードは各SDカードメーカーへお問い合わせください。
- SDカードの使用中は、SDカードを取り外したり、本機の電源を切ったりしないでください。データの消失、故障の原因となります。

■ SDカードを取り付ける

- 1 SIMカード／SDカードのトレイの穴に、SIM取り出しピン(試供品)を差し込み、トレイを矢印の方向にまっすぐ引き出す



- 2** SDカードの金属端子面を下に向けてトレイに置き、トレイを矢印の方向にまっすぐ差し込む



- 3** 矢印の方向になぞり、トレイが浮いていることのないように確実に押し込む

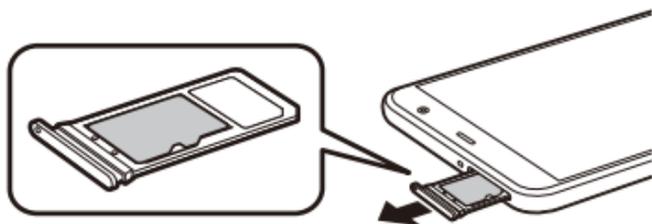


■ SDカードを取り外す

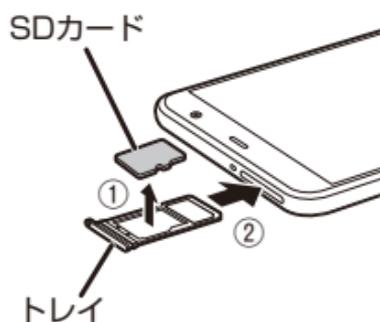
SDカードを取り外す前に、SDカードの取り出しを実行してください。

- 1** ホーム画面で  (アプリ) → [設定] → [ストレージ] → [▲]
- 2** 本機の電源を切る

- 3** SIMカード／SDカードのトレイの穴に、SIM取り出しピン(試供品)を差し込み、トレイを矢印の方向にまっすぐ引き出す



- 4** トレイからSDカードを取り出し(①)、トレイを矢印の方向にまっすぐ差し込む(②)



- 5** 矢印の方向になぞり、トレイが浮いていることのないように確実に押し込む



充電について

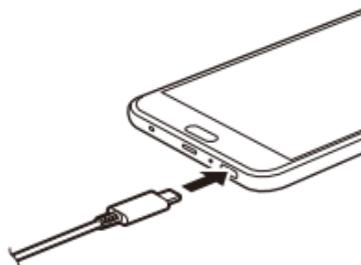
お買い上げ時、内蔵電池は十分に充電されていません。必ず充電してからお使いください。

- ACアダプタは別売品です。ACアダプタ、およびその他の周辺機器についてはワイモバイルのホームページを参照してください。

■ ACアダプタ(別売)を使用する

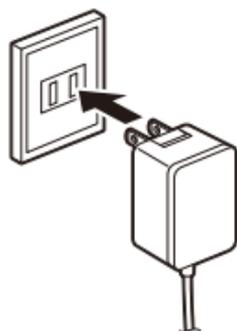
ここでは、ACアダプタ(USB Type-C Quick Charge 3.0対応) [ZSCAZY] (Y!mobile Selection USB Type-C 急速充電ACアダプタ[Y1-AC17-TCQC])を使用して充電する方法を例に説明します。

- 1 ACアダプタ(別売)のType-Cプラグを本機に差し込む**
Type-Cプラグは外部接続端子にまっすぐに差し込みます。



- 2 ACアダプタ(別売)の電源プラグをコンセントに差し込む**

充電中は通知ランプが赤色に点灯し、充電中アイコン(🔌)がステータスバーに表示されます。充電が完了すると、通知ランプが緑色に点灯し、フル充電アイコン(🔋)が表示されます。



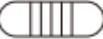
3 充電が終わったら、ACアダプタ(別売)の電源プラグをコンセントから抜く

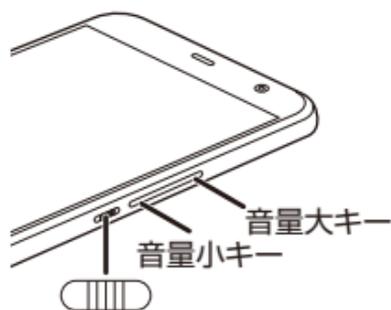
4 ACアダプタ(別売)のType-Cプラグを持って、本機からまっすぐ引き抜く

強制再起動(リセット)について

画面が動かなくなったり、電源が切れなくなったりした場合は、本機を強制的に再起動(リセット)できます。

- 強制的に再起動(リセット)すると、保存されていないデータは消失します。本機が操作できなくなったとき以外は行わないください。

1 音量大キーと音量小キーを押しながら  を12秒間押す



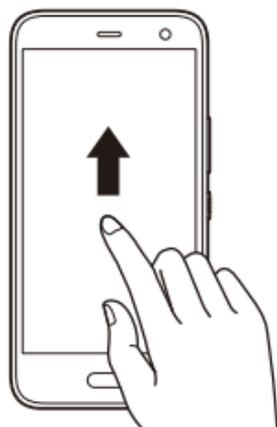
2  と  の点滅が終了したら、音量大キーと音量小キーならびに  から指を離す

バイブレータが動作したあと、しばらくして本機が再起動します。

画面ロックについて

一定時間操作しなかったときは、画面の表示が消え画面ロックが設定されます。○□□□□を押すとロック画面が表示されます。

お買い上げ時はロック画面の🔒を上にはスワイプ(フリック)すると、画面ロックが解除されます。



- セキュリティを強化するため、パターンを指でなぞったり、暗証番号やパスワードを入力したり、指紋を認証したりして解除するように設定することもできます。詳しくは、Android ヘルプを参照してください。
- ロック画面で🔒以外のアイコンを上にはスワイプ(フリック)すると、画面ロックが解除され、それぞれのアプリが起動します。

防水／防塵性能について

本機はSIMカード／SDカードのトレイを確実に取り付けた状態で、保護等級(JIS C 0920)のIPX7相当の防水性能、IP6X相当の防塵性能を有しています。

IPX7相当: 常温で水道水、かつ静水の水深1mの水槽に静かに本機を沈めた状態で約30分間、水底に放置しても本機内部に浸水せず、電話機としての性能を保つことを意味します。

IP6X相当: 直径75 μ m以下の塵埃(じんあい)が入った装置に本機を8時間入れ、攪拌(かくはん)させて取り出したときに電話機としての性能を有し、かつ安全に維持することを意味します。

すべての状況での動作を保証するものではありません。お客様の取り扱いの不備による故障と認められた場合は、保証の対象外となります。

■ ご使用にあたっての重要事項

- 次のような液体には浸けないでください。
 - 石けん、洗剤、入浴剤の入った水
 - 海水、プール、温泉の中
 - 水以外の液体(アルコールなど)
 - SIMカード／SDカードのトレイをしっかりと取り付けた状態にしてください。
 - 完全に取り付けていることで防水性能が発揮されます。
 - 本体とトレイの接触面に微細なゴミ(髪の毛1本など)がわずかでも挟まると浸水の原因となります。
 - 手や本機が濡れている状態でSIMカード／SDカードのトレイの取り付け・取り外しは絶対にしないでください。
- ※SIMカード／SDカードのトレイの取り付けかたは「SIMカードを取り付ける」(▶P.32)を参照してください。

- ・ 砂浜などの上に直に置かないでください。受話口、送話口(マイク)、受話口などに砂などが入り音が小さくなったり、本体内に砂などが混入すると発熱や故障の原因となります。



砂／泥

- ・ お風呂、台所など、湿気の多い場所には長時間放置しないでください。
- ・ 水濡れ後は本体の隙間に水がたまっている場合があります。よく振って水を抜いてください。特に電源キーや音量キー内、外部接続端子部の水を抜いてください。
- ・ 水抜き後も、水分が残っている場合があります。ご使用にはさしつかえありませんが、濡れては困るもののそばには置かないでください。
また、服やかばんの中などを濡らす恐れがありますのでご注意ください。
- ・ 送話口(マイク)、受話口に水がたまり、一時的に音が聞こえにくくなった場合は水抜きを行ってください。

■ 利用シーン別の注意事項

雨の中: 雨の中、傘をささずに濡れた手で持って通話できます。

- ・ 雨とは、「やや強い雨」の場合です(1時間の雨量が20mm未満まで)。
- ・ ディ스플레이に水滴が付着していると、タッチパネルが誤動作する場合があります。
- ・ 雨がかかっている最中、本機に水滴がついているとき、または手が濡れている状態でSIMカード／SDカードのトレイの取り付け・取り外しは絶対にしないでください。

シャワー: シャワーを浴びた濡れた手で持って通話できます。

- ・ 耐水圧設計ではないので高い水圧が直接かかるようなご使用はしないでください。

洗う: やや弱めの水流(6リットル／分以下)で蛇口やシャワーより約10cm離れた位置で常温(5℃～35℃)の水道水で洗えます。

- ・ 耐水圧設計ではないので高い水圧を直接かけたり、長時間水中に沈めたりしないでください。

- 洗うときは、SIMカード／SDカードのトレイが外れないように押さえたまま、ブラシやスポンジなどは使用せず手で洗ってください。
- 洗濯機や超音波洗浄機などで洗わないでください。
- 石けん、洗剤などの水道水以外のものをかけたり、浸けたりしないでください。

お風呂: お風呂で使用できます。濡れた手で通話できますが、湯船には浸けないでください。耐熱設計ではありません。

- お風呂場での長時間のご使用はおやめください。防湿仕様ではありません。
- 急激な温度変化は、結露の原因となります。寒い場所から暖かいお風呂場などに本機を持ち込むときは、本機が常温になってから持ち込んでください。
- ディ스플레이の内側に結露が発生した場合、結露が取れるまで常温で放置してください。
- 高温のお湯をかけないでください。耐熱設計ではありません。

キッチン: キッチンなど水を使う場所でも使用できます。

- 石けん、洗剤、調味料、ジュースなど水道水以外のものをかけないでください。
- 熱湯に浸けたり、かけたりしないでください。耐熱設計ではありません。
- コンロのそばや冷蔵庫の中など、極端に高温・低温になる場所に置かないでください。

■ 共通注意事項

• SIMカード／SDカードのトレイについて

SIMカード／SDカードのトレイはしっかりと取り付けた状態にしてください。接触面に微細なゴミ(髪の毛1本など)がわずかでも挟まると浸水の原因となります。SIMカード／SDカードのトレイを取り付け・取り外しする際は手袋などをしたまま操作しないでください。接触面は微細なゴミ(髪の毛1本など)がわずかでも挟まると浸水の原因となります。トレイを閉じる際、わずかでも水滴・汚れなどが付着している場合は、乾いた清潔な布で拭き取ってください。

SIMカード／SDカードのトレイに劣化・破損があるときは、防水性能を維持できません。劣化・破損があるときは、お近くのワイモバイルショップまでご連絡ください。

• 水以外が付着した場合

万一、水以外(海水・洗剤・アルコールなど)が付着してしまった場合、すぐに水で洗い流してください。

やや弱めの水流(6リットル／分以下)で蛇口やシャワーより約10cm離れた位置で常温(5℃～35℃)の水道水で洗えます。

汚れた場合、ブラシなどは使用せずSIMカード／SDカードのトレイが外れないように押さえながら手で洗ってください。

• 水に濡れた後は

水濡れ後は水抜きをし、本機に付着した水分を乾いた清潔な布でよく拭き取ってください。

寒冷地では本機に水滴が付着していると、凍結することがあります。凍結したままで使用すると故障の原因となります。水滴が付着したまま放置しないでください(本機は、結露に関しては特別な対策を実施しておりません)。

• パッキンについて

SIMカード／SDカードのトレイ周囲のパッキンは、防水性能を維持するため大切な役割をしています。傷付けたり、はがしたりしないでください。

SIMカード／SDカードのトレイを取り付ける際はパッキンを噛み込まないようにご注意ください。噛み込んだまま無理に閉めようとすると、パッキンが傷付き、防水性能が維持できなくなる場合があります。接触面に微細なゴミ(髪の毛1本など)がわずかでも挟まると浸水の原因となります。

常温(5℃～35℃)の真水・水道水以外の液体(温水や海水、洗剤、薬品、汗など)が付着した場合は、防水性能を維持できなくなる場合があります。

SIMカード／SDカードのトレイの隙間に、先のとがったものを差し込まないでください。本体が破損・変形したり、パッキンが傷つく恐れがあり、浸水の原因となります。

防水性能を維持するための部品が劣化・破損した場合、防水性能を維持できなくなります。異常の有無にかかわらず1年ごとに交換することをおすすめします。部品の交換については、お近くのワイモバイルショップまでご連絡ください。なお、部品の交換は有償になる場合があります。

• 充電について

本機が濡れている状態では、絶対に充電しないでください。同梱品、オプション品は防水性能を有しておりません。

• 防水性能について

耐水圧設計ではありませんので、高い水圧がかかる場所(蛇口・シャワーなど)でのご使用はおやめください。また、規定以上の強い水流(6リットル／分以上の水流:例えば、蛇口やシャワーから肌に当てて痛みを感じるほどの強さの水流)を直接当てないでください。本機はIPX7相当の防水性能を有しておりますが、故障の原因となります。

洗濯機や超音波洗浄機などで洗わないでください。

● 耐熱性について

熱湯・サウナ・熱風(ドライヤーなど)は使用しないでください。本機は耐熱設計ではありません。

● 衝撃について

本機は耐衝撃性能を有しておりません。落下させたり、衝撃を与えないでください。また、受話口、送話口(マイク)、スピーカーなどを綿棒やとがったものでつつかないでください。本機が破損・変形する恐れがあり、浸水の原因となります。

■ 水に濡れたときの対処について

本機を水に濡らした場合、そのまま使用すると衣服やかばんなどを濡らす場合や音が聞こえにくくなる場合があります。

次の手順で乾燥させてください。

1. 本機に付着した水分を乾いたタオル・布などでよく拭き取ってください。
2. 外部接続端子が上になるように本機をしっかり持ち、数回振ってください。
3. 乾いたタオル・布などを下に敷き、2～3時間程度常温で放置して乾燥させてください。

※乾燥が不十分の場合、音が聞こえにくくなります。十分に放置して乾燥させてからご使用ください。

■ 充電のときは

同梱品、オプション品は防水性能を有しておりません。充電時、および充電後には次の点をご確認ください。

- 本機が濡れている状態では絶対に充電しないでください。感電や電子回路のショートなどによる火災・故障・やけどの原因となります。
- 本機が濡れていないかご確認ください。水に濡れた後に充電する場合は、よく水抜きをして乾いた清潔な布などで拭き取ってください。
- 指定の充電用機器(オプション品)は、水のかからない状態で使用し、お風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水回りでは使用しないでください。火災・感電・故障・傷害の原因となります。また、充電しないときでも、お風呂場などに持ち込まないでください。火災・感電・故障・傷害の原因となります。

輸出管理規制

本機および付属品は、日本輸出管理規制(「外国為替及び外国貿易法」およびその関連法令)の適用を受ける場合があります。また米国再輸出規制(Export Administration Regulations)の適用を受ける場合があります。本機および付属品を輸出および再輸出する場合は、お客様の責任および費用負担において必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては経済産業省または米国商務省へお問い合わせください。

知的財産権について

著作権・肖像権について

お客様が本機で撮影・録音したデータやインターネット上からダウンロードなどで取得したデータの全部または一部が、第三者の有する著作権で保護されている場合、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で複製、頒布、公衆送信、改変などはできません。

また、他人の肖像や氏名を無断で使用・改変などをすると肖像権の侵害となる恐れがありますので、そのようなご利用もお控えください。なお、実演や興行、展示物などでは、個人で楽しむなどの目的であっても、撮影・録音を制限している場合がありますのでご注意ください。

また、撮影したフォトなどをインターネットウェブページなどで公開する場合は、著作権や肖像権に十分ご注意ください。

商標について

本書に記載している会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

- SoftBankおよびソフトバンクの名称、ロゴは日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- microSDロゴ、microSDHCロゴ、microSDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。



- microSD™はSD Card Associationの商標です。
- BluetoothはBluetooth SIG, Inc. USAの登録商標です。
- Bluetooth® smart readyワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、HTC Corporationは、これら商標を使用する許可を受けています。



- Wi-Fi Certified®とそのロゴは、Wi-Fi Allianceの登録商標または商標です。
- 「Wi-Fi」および「Wi-Fi」ロゴは、Wi-Fi Alliance®の登録商標です。



- Microsoft®, Windows®, Windows Vista®, ActiveSync®およびOutlook®のロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- 「Twitter」はTwitter, Inc.の登録商標です。

- FacebookおよびFacebookロゴはFacebook, Inc.の商標または登録商標です。
- Apple、Mac およびMac OS は米国その他の国で登録されたApple Computer, INC.の商標です。
- Copyright 2017 Google Inc.使用許可取得済
- Google、Googleロゴ、Android、Google Play™、Google+、Googleドライブ、Google音声検索、Googleマップ™、Chrome、Gmail™、ハングアウト、YouTube、YouTubeロゴおよびその他の商標はGoogle Inc.の商標または登録商標です。
- ロヴィ、Rovi、Gガイド、G-GUIDE、Gガイドモバイル、G-GUIDE MOBILE、およびGガイド関連ロゴは、米国Rovi Corporationおよび／またはその関連会社の日本国内における商標または登録商標です。
- JavaおよびJavaに関する商標は、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。
- Dolby、ドルビーおよびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの登録商標です。
- HTCおよびHTCロゴ、「HTC SENSE」、「TouchFLO」、「EDGE SENSE」、「HTC Zoe」、「HTC BoomSound」、「HTC BlinkFeed」はHTC Corporationの商標または登録商標です。
- HTCは日本オーディオ協会のハイレゾ定義に準拠した製品に、このロゴを冠して推奨しています。ロゴは登録商標です。



- USB Type-C™はUSB Implementers Forumの商標です。
- FeliCaはソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。
- FeliCaはソニー株式会社の登録商標です。
- は、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- 「おサイフケータイ」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。
- その他本文中に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

■ OpenSSL License

【OpenSSL License】

Copyright © 1998-2012 The OpenSSL Project. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. ([http://](http://www.openssl.org/)

www.openssl.org/)

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)

HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

【Original SSLeay License】

Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

■ Windowsの表記について

本書では各OS(日本語版)を以下のように略して表記しています。

- Windows[®] 10は、Microsoft[®] Windows[®] 10 Home、Microsoft[®] Windows[®] 10 Mobile、Microsoft[®] Windows[®] 10 Pro、Microsoft[®] Windows[®] 10 Enterprise、Microsoft[®] Windows[®] 10 Education、Microsoft[®] Windows[®] 10 Mobile Enterprise、Microsoft[®] Windows[®] 10 IoT Coreの略です。
- Windows[®] 8は、Microsoft[®] Windows[®] 8、Microsoft[®] Windows[®] 8 Pro、Microsoft[®] Windows[®] 8 Enterpriseの略です。
- Windows[®] 7は、Microsoft[®] Windows[®] 7(Starter、Home Basic、Home Premium、Professional、Enterprise、Ultimate)の略です。
- Windows Vista[®]は、Microsoft[®] Windows Vista[®] Ultimate、Microsoft[®] Windows Vista[®] Business、Microsoft[®]

Windows Vista® Home Premium、Microsoft® Windows Vista® Home Basicの略称です。

■ その他

本機に搭載されているソフトウェアまたはその一部につき、改変、翻訳・翻案、リバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アッセンブルを行ったり、それに関与してはいけません。

本機を他人に使わせたり譲渡する目的で海外へ持ち出す場合は、輸出許可が必要になることがあります。旅行や出張時に本人が使用する目的で日本から持ち出し持ち帰る場合には許可は不要です。

An export permit may be required if this device is to be used by or transferred to anyone else. No such documentation is required if you take this device out of the country and bring it back for the purpose of personal use when going on vacations or short business trips.

米国輸出規制により本機をキューバ、イラン、朝鮮民主主義人民共和国、スーダン、シリアへ持ち込むためには米国政府の輸出許可が必要です。

This device is controlled under the export restrictions of the United States of America. A US government export permit is required to export to Cuba, Iran, North Korea, Sudan and Syria.

本機は、MPEG-4 Visual Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、お客様が個人的かつ非営利目的において以下に記載する場合においてのみ使用することが認められています。

- MPEG-4 Visualの規格に準拠する動画(以下、MPEG-4 Video)を記録する場合
- 個人的かつ非営利的活動に従事する消費者によって記録されたMPEG-4 Videoを再生する場合
- MPEG-LAよりライセンスを受けた提供者により提供されたMPEG-4 Videoを再生する場合

プロモーション、社内用、営利目的などその他の用途に使用する場合には、米国法人MPEG LA, LLCにお問い合わせください。

- 本機は、AVCポートフォリオライセンスに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために(i)AVC規格準拠のビデオ(以下「AVCビデオ」と記載します)を符号化するライセンス、および／または(ii)AVCビデオ(個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたAVCビデオ、および／またはAVCビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したAVCビデオに限ります)を復号するライセンスが許諾されております。その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておりません。さらに詳しい情報については、MPEG LA, LLCから入手できる可能性があります。
<http://www.mpegla.com>をご参照ください。

本機の比吸収率(SAR)について

この機種Android One X2の携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および国際ガイドラインに適合しています。

電波の人体吸収に関する国の技術基準^{*1}は、人体の近くで使用する携帯電話機などの無線機器から送出される電波が人間の健康に影響を及ぼさないよう、科学的根拠に基づいて定められたものであり、人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)について、2W/kgの許容値を超えないこととしています。この許容値は、使用者の年齢や身体の大きさに関係なく十分に安全な値として設定されており、世界保健機関(WHO)と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が示した国際的なガイドラインにおける値と同じ値です。

本携帯電話機Android One X2の頭部におけるSARの最大値は0.338W/kg^{*2}であり、また下記の方法^{*3}により身体に装着した場合のSARの最大値は1.199W/kg^{*2}です。これらは、国が定めた方法に従い、携帯電話機の送信電力を最大にして測定された最大の値です。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満たしています。また、携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通信等を行っている状態では、通常SARはより小さい値となります。

■ 頭部以外の位置におけるご使用方法^{*3}

この携帯電話機は、頭部以外の位置でも使用可能です。キャリングケース等のアクセサリをご使用になるなどして、身体から0.5cm以上離し、かつその間に金属(部分)が含まれないようにすることで、この携帯電話機は電波の人体吸収に関する国の技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合します。

^{*1} 技術基準については、電波法関連省令(無線設備規則第14条の2)に規定されています。

^{*2} <携帯電話サービス>と同時に使用可能な無線機能を含みません。

世界保健機関は、『携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません。』と表明しています。

また、SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記のホームページをご参照ください。

- 総務省のホームページ
<http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm>
- 一般社団法人電波産業会のホームページ
<http://www.arib-emf.org/01denpa/denpa02-02.html>

電波ばく露の影響に関する情報として、欧州における基準および米国連邦通信委員会(FCC)の基準を掲載しています。詳細は「欧州における電波ばく露の影響に関する情報」、「米国連邦通信委員会(FCC)の電波ばく露の影響に関する情報」をご参照ください。

欧州における電波ばく露の影響に関する情報

本携帯電話機Android One X2は、国際的ガイドラインが定める電波の許容値を超えないことが確認されています。このガイドラインは、独立した科学機関である国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が策定したものであり、その許容値は、使用者の年齢や健康状態にかかわらず十分に安全な値となっています。

携帯電話機から送出される電波の人体に対する影響は、比吸収率(SAR:Specific Absorption Rate)という単位を用いて測定します。携帯機器におけるSARの許容値は2W/kgで、本携帯電話機の側頭部におけるSARの最大値は0.22W/kg、アクセサリ等により人体より0.5cm以上離して、その間に金属(部分)が含まれないようにして使用する場合のSARの最大値は1.41W/kgです。

米国連邦通信委員会(FCC)の電波ばく露の影響に関する情報

米国連邦通信委員会の指針は、独立した科学機関が定期的かつ周到に科学的研究を行った結果策定された基準に基づいています。この許容値は、使用者の年齢や健康状態にかかわらず十分に安全な値となっています。

携帯電話機から送出される電波の人体に対する影響は、比吸収率(SAR:Specific Absorption Rate)という単位を用いて測定します。FCCで定められているSARの許容値は、1.6W/kgとなっています。

測定試験は機種ごとにFCCが定めた位置で実施され、本携帯電話機の側頭部におけるSARの最大値は0.92W/kg、下記のとおりに従って身体に装着した場合のSARの最大値は0.94W/kgです。

身体装着の場合:この携帯電話機Android One X2は、一般的な携帯電話の装着法として身体から1.0cmに距離を保ち携帯電話機の背面を身体に向ける位置で測定試験を実施しています。FCCの電波ばく露要件を満たすためには、ベルトクリップやホルスターなどには金属部品の含まれていないものを選んでください。

上記の条件に該当しない装身具は、FCCの定めるSAR許容値を満たさない場合もあるので使用を避けてください。

比吸収率(SAR)に関するさらに詳しい情報をお知りになりたい場合は下記のホームページを参照してください。

FCC Radio Frequency Safety(英文のみ)

<https://www.fcc.gov/general/radio-frequency-safety-0>

世界保健機関は、携帯機器の使用に関して、現在の科学情報では人体への悪影響は確認されていないと表明しています。また、電波の影響を抑えたい場合には、通話時間を短くすること、または携帯電話機を頭部や身体から離して使用することが出来るハンズフリー用機器の

利用を推奨しています。さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページをご参照ください。

世界保健機関(英文のみ)

<http://www.who.int/emf>

Specific Absorption Rate (SAR) for This Product (for Japan)

This mobile phone Android One X2 meets Japanese technical regulations* and international guidelines for exposure to radio waves.

The Japanese technical regulations for exposure to radio frequency energy established permitted levels of radio frequency energy, based on standards developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies.

The regulations employ a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

The SAR limit is 2 watts/kilogram (W/kg) averaged over ten grams of tissue.

The limit includes a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The value of the limit is equal to the value given in international guidelines recommended by ICNIRP**, which is in collaboration with the World Health Organization (WHO).

The highest SAR value for this mobile phone is 0.338 W/kg*** when tested for use at the ear, and 1.199 W/kg*** when worn on the body in the below manner****.

While there may be differences between the SAR levels of various phones and at various positions, all phones meet the Japanese technical regulations.

Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR of the phone during operation can be well below the maximum value.

■ Use at positions other than at the ear****

This mobile phone may be used at positions other than at the ear.

By using an accessory such as a belt clip holster that maintains a 0.5 cm separation with no metal (parts) between it and the body and the mobile phone, this mobile phone will comply with international guidelines for radio wave protection.

- * The technical regulations are provided in Article 14-2 of the Ministry Ordinance Regulating Radio Equipment.
- ** International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection
- *** The value is under simultaneous transmission use conditions.

The World Health Organization has announced that "A large number of studies have been performed over the last two decades to assess whether mobile phones pose a potential health risk. To date, no adverse health effects have been established as being caused by mobile phone use."

For more information about SAR, see the following websites:

- Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC)
<http://www.tele.soumu.go.jp/e/sys/ele/body/index.htm>
- Association of Radio Industries and Businesses (ARIB)
<http://www.arib-emf.org/O1denpa/denpa02-02.html>
(Japanese)

This mobile phone Android One X2 is confirmed to comply with guidelines relating to effects of radio wave exposure as set forth by the Council of Europe (CE) and the Federal Communications Commission (FCC). Refer to the following.

European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health. The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2.0 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear is 0.22 W/kg*. As mobile devices offer a range of functions, they can be used in other positions, such as on the body. In this case, the highest tested SAR value is 1.41 W/kg* at the separation distance of 0.5 cm from the body. For electronic safety, maintain the separation distance with accessories containing no metal, that position handset a minimum of the above distance. Use of other accessories may not ensure compliance with RF exposure guidelines.

- * The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver. It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.

The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organization through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg. The tests are performed in positions and locations (e.g. at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model. The highest SAR value for this model handset as reported to the FCC when tested for use at the ear is 0.92 W/kg, and when worn on the body in a holder or carry case, is 0.94 W/kg.

Body-worn Operation; This device was tested for typical body-worn operations with the handset kept 1.0 cm from the body. Third-party belt-clips, holsters, and similar accessories used by this device should not contain any metallic components.

The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided. The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the

FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of <http://www.fcc.gov/oet/ea/> after searching on FCC ID NM8X2-HT. Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the FCC website at <https://www.fcc.gov/general/radio-frequency-safety-0>.

The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head and body.

World Health Organization
<http://www.who.int/emf>

FCC Notice

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note:

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help and for additional suggestions.

Check FCC ID in the following steps.

Settings(設定) ⇒ System(システム) ⇒ About phone(端末情報) ⇒ Regulatory(認証情報)

Warning

The user is cautioned that changes or modifications not expressly approved by the manufacturer could void the user's authority to operate the equipment.

DECLARATION OF CONFORMITY

(1)

If your device belongs to Class II device, please put below countries you are intended to sold.

This equipment may be operated in:							
AT	BE	BG	CH	CY	CZ	DE	DK
EE	ES	FI	FR	GB	GR	HU	IE
IT	IS	LI	LT	LU	LV	MT	NL
NO	PL	PT	RO	SE	SI	SK	TR

(2)

Products with 2.4-GHz Wireless LAN Devices

For 2.4-GHz wireless LAN operation of this product, certain restrictions apply. This equipment may use the entire-2400-MHz to 2483.5-MHz frequency band (channels 1 through 13) for indoor applications. For outdoor use, only 2400-2454 MHz frequency band may be used. For the latest requirements, see <https://www.arcep.fr/>.

(3)

For the device which tests accordance to EN60950-1:2006, it is mandatory to perform audio tests for EN50332.

This device have been tested to comply with the Sound Pressure Level requirement laid down in the applicable EN 50332-1and/or EN 50332-2 standards. Permanent hearing loss may occur if earphones or headphones are used at high volume for prolonged periods of time.

Note: For France, headphones/earphones for this device are compliant with the sound pressure level requirement laid down in the applicable EN 50332-1: 2000 and/or EN50332-2: 2003 standard as required by French Article L.5232-1.



A pleine puissance, l'écoute prolongée du baladeur peut endommager l'audition de l'utilisateur.

(4) CE SAR Information

This device meets the EU requirements (1999/519/EC) on the limitation of exposure of the general public to electromagnetic fields by way of health protection.

The limits are part of extensive recommendations for the protection of the general public. These recommendations have been developed and checked by independent scientific organizations through regular and thorough evaluations of scientific studies. The unit of measurement for the European Council's recommended limit for mobile devices is the "Specific Absorption Rate" (SAR), and the SAR limit is 2.0 W/kg averaged over 10 g of body tissue. It meets the requirements of the International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection (ICNIRP).

For body worn operation, this device has been tested and meets the ICNIRP exposure guidelines and the European Standard EN 62311 and EN 62209-2, for use with dedicated accessories. Use of other accessories which contain metals may not ensure compliance with ICNIRP exposure guidelines.

SAR is measured with the device at a separation of 0.5 cm to the body, while transmitting at the highest certified output power level in all frequency bands of the mobile device.

Head: 0.22 W/kg@10g

Body: 1.41 W/kg@10g

telefication by
The Netherlands
Chamber of Commerce
9959399
www.telefication.com



EU-type examination (Module B)

certificate

No: 172141206/AA/00

In compliance with the procedure specified in RD_061, Telefication declares as designated Notified Body 0560 for the European Radio Equipment Directive, that the stated product, complies with the essential requirements, in accordance with Article 3 of Directive 2014/53/EU, as indicated under Annex 1 of this certificate, based on the applicable Technical Standards and Specifications as listed under Annex 2 of this Certificate.

Product description: **Smartphone**
Trademark: HTC
Type designation: X2-HT
Variants: -

This certificate is granted to manufacturer:

Name: **HTC Corporation**
Address: **23 Xinghua Road, Taoyuan District**
City: **330 Taoyuan City**
Country: **Taiwan**

This certificate remains valid as long as the stated product stays in compliance with the essential requirements of the Radio Equipment Directive.

This certificate has THREE Annexes.

Zevenaar, 17 October 2017



Geesta Geers
Product Assessor



laboratory

certification

approval

暗証番号について

本機のご利用にあたっては、次の暗証番号が必要となります。

PIN／パスワード:画面ロック解除を行うときに使用する暗証番号です。お買い上げ時は設定されていません。

暗証番号:ご契約時の4桁の暗証番号で、オプションサービスを一般電話から操作する場合などに必要な番号です。

- 暗証番号はお忘れにならないようご注意ください。万一お忘れになった場合は、所定の手続きが必要となります。詳しくは、お問い合わせ先(▶P.72)までご連絡ください。
- 暗証番号は、他人に知られないようご注意ください。他人に知られ悪用されたときは、その損害について当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

PINコード設定

PINコードとは、SIMカードの暗証番号です。第三者による本機の無断使用を防ぐために使用します。お買い上げ時には「9999」に設定されています。

- PINコードの入力を3回間違えると、PINロック状態となります。その際は、PINロック解除コード(PUKコード)が必要となります。
- PUKコードについては、お問い合わせ先(▶P.72)までご連絡ください。
- PUKコードを10回間違えると、SIMカードがロックされ、本機が使用できなくなります。その際には、ワイモバイルショップにてSIMカードの再発行(有償)が必要となります。

SIMカードをロックする

PINコードを有効にすることで、SIMカードを本機に取り付けた状態で電源を入れたとき、PINコードを入力する画面を表示するように設定できます。

- 1 ホーム画面で  (アプリ) → [設定] → [セキュリティと現在地情報] → [SIMカードロック]
- 2 [SIMカードをロック] → PINコードを入力 → [OK]

PINコードを変更する

PINコードの変更は、PINコードを有効にしている場合のみ操作できます。

- 1 ホーム画面で  (アプリ) → [設定] → [セキュリティと現在地情報] → [SIMカードロック]
- 2 [SIM PINの変更] → 現在のPINコードを入力 → [OK]
- 3 新しいPINコードを入力 → [OK] → 新しいPINコードを再度入力 → [OK]

ソフトウェア更新

ネットワークを利用して本機のソフトウェア更新が必要かどうかを確認し、必要なときには手動で更新ができます。

- 確認／更新には、通信料はかかりません。
 - ソフトウェア更新には、約30分程度かかる場合があります。更新が完了するまで、本機は使用できません。
 - ソフトウェア更新を実行する前に電池残量が十分かご確認ください。
 - ソフトウェア更新は電波状態のよいところで、移動せずに行ってください。
 - ソフトウェア更新中は、ほかの機能は操作できません。
 - 必要なデータはソフトウェア更新前にバックアップすることをおすすめします(一部ダウンロードしたデータなどは、バックアップできない場合があります)。ソフトウェア更新前に本機に登録されたデータはそのまま残りますが、本機の状況(故障など)により、データが失われる可能性があります。データ消失に関しては、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
 - ソフトウェア更新中は絶対にSIMカードを取り外したり、電源を切らないでください。更新に失敗することがあります。
 - ソフトウェア更新に失敗すると、本機が使用できなくなることがあります。その場合は、お問い合わせ先(▶P.72)までご連絡ください。
- ソフトウェア更新後に再起動しなかったときは、電源を入れ直してください。それでも起動しないときは、お問い合わせ先(▶P.72)までご連絡ください。

ソフトウェアを更新する

- 1 ホーム画面で  (アプリ) → [設定]
- 2 [システム] → [システムアップデート]
- 3 [アップデートをチェック]

以降は、画面の指示に従って操作します。

ソフトウェア更新が完了すると、自動的に再起動します。

- ソフトウェア更新後に再起動しなかったときは、電源を入れ直してください。それでも起動しないときは、お問い合わせ先 (▶P.72) までご連絡ください。

保証とアフターサービス

保証について

本機をお買い上げいただいた場合は、保証書が付いております。

- お買い上げ店名、お買い上げ日をご確認ください。
- 内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。
- 保証期間は、保証書をご覧ください。
- 本機の故障または不具合などにより、通話などの機会を逸したためにお客様または第三者が受けられた損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 故障または修理により、お客様が登録／設定した内容が消失／変化する場合がありますので、大切な電話帳などは控えをとっておかれることをおすすめします。なお、故障または修理の際に本機に登録したデータ(電話帳／画像／サウンドなど)や設定した内容が消失／変化した場合の損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本機を分解／改造すると、電波法にふれることがあります。また、改造された場合は修理をお引き受けできませんので、ご注意ください。

アフターサービスについて

修理を依頼される場合、お問い合わせ先(▶P.72)または最寄りのワイモバイルショップへご相談ください。その際、できるだけ詳しく異常の状態をお聞かせください。

- 保証期間中は保証書の記載内容に基づいて修理いたします。
- 保証期間後の修理につきましては、修理により機能が維持できる場合は、ご要望により有償修理いたします。
- アフターサービスについてご不明な点は、最寄りのワイモバイルショップまたはお問い合わせ先(▶P.72)までご連絡ください。

お問い合わせ先一覧

お困りのときや、ご不明な点などございましたら、お気軽に下記お問い合わせ窓口までご連絡ください。

■ ワイモバイル カスタマーセンター

- お問い合わせの際に、ワイモバイルのスマートフォン・ケータイの電話番号と暗証番号(新規ご契約時にお客様にてお決めいただいた4桁の番号)が必要になります。
- ホームページ <http://ymobile.jp/>

■ 総合窓口(受付時間：午前9時から午後8時まで)

- ワイモバイルのスマートフォン・ケータイから
151(有料)
- 一般電話、他社スマートフォン・ケータイから
0570-039-151(有料)

■ 各種お手続き(受付時間：24時間)

- ワイモバイルのスマートフォン・ケータイから
116(無料)
- 一般電話、他社スマートフォン・ケータイから
0120-921-156(無料)

■ 海外から(受付時間：午前9時から午後8時まで(日本時間)) +81-4-4382-0800(有料)

2017年11月 第2版発行 ソフトバンク株式会社
輸入元:HTC NIPPON株式会社
製造元:HTC Corporation